

刊夕 日 七 月 九

# 常 警 報 日 新 聞

定価 一部五銭 月刊五銭 郵費五銭  
廣告料五銭 印刷料一銭 行金五銭  
日 曜 祭 日 の 翌 日 休 刊  
行 先 常 警 報 日 新 聞 社  
福 島 県 石 川 郡 平 川 町 三 五  
電 話 六 三 〇 〇  
印 刷 所 常 警 報 日 新 聞 社 印 刷 部

## 學 なくも 信あれ

真 繼 雲 山

生を明らめ、死を諦らむるは、佛家一大事の因縁なりとあるから、生死を透脱するは成金になる以上の大事業に相違ない。左れど成金たり得るものは千萬人中僅かに一人しかあり得ないが、生あるものはことごとく無量壽の光明界裡に攝取されない。ものはないたゞその生死の相が分らぬゆゑ、現在も未來も暗黒となり、苦悶懊惱するのである。

生死解脱とは、生を欣ばず、死を厭はずで謂はゆる生死とも離れることに外ならぬのであるから、生死の問題以上に慈心の勝つてゐる人ならば、名利の念が胸一ぱい、で生死のことが考へる餘裕すらもない人がある。

講壇に立ば一かどの佛説を滔々と並べる大家名士も一歩、家庭に入り、妻子の前に經濟難に直面すれば、それが如來のお計らひだなどいふ法悦はちつとも湧かず、苦惱の果ては畜生同然の心にも成り下るといふのは、必ずしも大家名士の罪にはあらず、それが凡夫と生れた罪惡深重の人間の心の奥底であつて、誰れも彼れも斯うして知りたる道に

踏み迷ふてゐるのである。

斯くて佛教學と實生活とが、しつくり一つに成り切らぬといふのは、學ありて信なく、解ありて行の伴はざるに由る、私はむしろ學なきも信あらんことを望む學は容易に得られないが、對しても、即時にして容易に得られる可能性がある。私たちが日々の生活苦を導いてくれる光りと力となるものは、佛教學ではなくして一念の信仰である。

私たちは、ヨシ生死は出離し得ずとも、せめて日々夜々、その日／＼の貧富榮落の生活苦を如來にお任せして、どのやうな毒苦のなかに在らうとも、心は常に淨土に住み遊ぶといふ金剛の信心を得たいものである。



## ス ポー ツ ご 筋 肉 (五)

城 南 生

筋肉が収縮するには筋肉内に複雑な化學的變化が見られるが、要するにグリコーゲンや酸素が絶對的に必要なものとしてゐる。筋が収縮するとき筋肉内のグリコーゲンが乳酸に變化する事は前述したがかくしてグリコーゲンが段々減少して乳酸が蓄積すると筋肉は

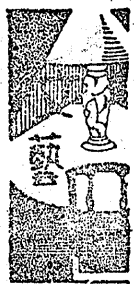
収縮する力が無くなつてしまふ、即ち疲労した事になる、それで疲労した筋肉を恢復するにはグリコーゲン等即ちエネルギーの泉源となるべき物質を供給し蓄積した乳酸を筋肉内から除去する必要があり、乳酸を除去するには前述の酸素が重要な役割をするわけである。即ち蓄積した乳酸は酸素に依つて變化されて一部は水と炭酸となり他の大部分約四分の一は再びグリコーゲンとなるのである。

それで此れ等の重要な役割を演ずる酸素やグリコーゲンは何に依つて供給せられるかを考へる必要がある。酸素は云ふまでもなく肺臟から取入れられて血液中に含まれ心臓血管等の循環係に依つて筋肉内に運ばれるがグリコーゲン等は食物として外部より攝取した物質が胃や腸に依つて消化され吸収されて適當に處理されて所謂酸素として循環係の助けをかりて必要に應じて夫れ／＼の場所に供給されるのである。

而して乳酸の變化に依る老廢物質なる水及炭酸は循環系の助けをかりて肺臟、腎臟等の排泄器官に送られて結局体外に排出せられる事になる。斯くの如く吾人の身体運

動は其の原動力は一見單に筋肉の収縮に歸する如く見られるも其の収縮が行はれるために必要なる種々な條件を思ひ起すならば實に吾人身体内部の凡ての器官即ち消化器系、循環器系、呼吸器系、神経系、排泄器系等其の他の考へを更に廣めて行くならば体温を調節する皮膚ホルモンを分泌して種々なる働きをなす内分泌器官等凡ゆる器官がこれに密接なる關係を有つてゐる事柄がわかるのである。故にスポーツマンたることを問はず前述の理を良く認識して置く必要があると同時に、スポーツマンが身体の運動に直接關係あるものは筋肉であるからとして筋肉の事のみを考へるは甚だしき認識不足であると云はれても仕方がない。

吾人の凡ての器官は常に相關聯して夫々獨特の働きを有するもので其の一つを欠く事を得ないものであるから如何なる種類のスポーツを行ふ者と云へども常に全身的な鍛錬法に依つて各々、技倆をより効果的に與へべきだと信ずる。



便 り

松岡賢治

カレンダーの青い静かな夜  
ベンの子の優しい行進曲  
長い／＼思の便りとなりま

した  
だけど、かはい、小鳩の  
胸の様に心がをのゝいて居  
ます

## ● は 切 貨 ●

の 番 三 四 三 話 電  
ミ シ サ

!!! へー シ ク タ 和 昭

## 門 專 科 外 花 院 醫 科 外 村 木

際 橋 目 丁 五 町 平  
番 九 〇 三 話 電

り 便 の 炊 自 院 入

## 藤 沼 醫 院

平 町 紺 屋 町  
電 話 五 〇 七 番

電 話 新 設  
☐ 二 九 八 番

右新設致しましたから御利用願上ます

有隣生命保險平代理店  
東洋白土會社常務販賣部

佐々木龍若

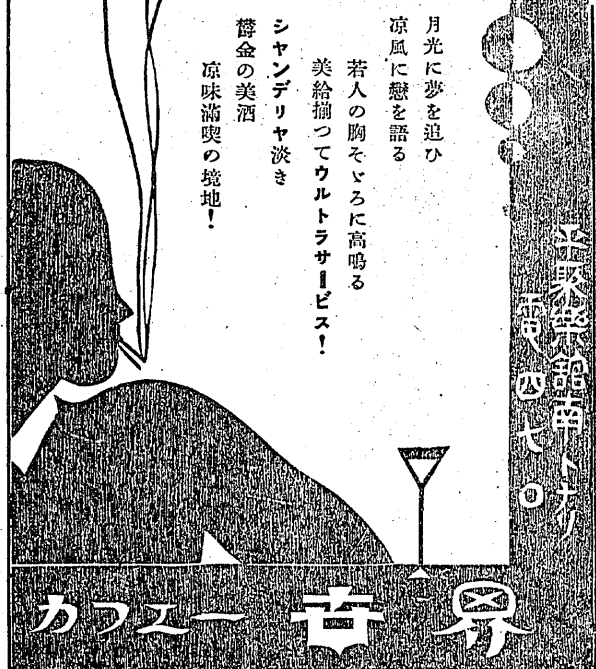
平町四軒町一八

## 科 外

門 專  
科 線 光 X

上 田 外 科 醫 院

平 町 南 町  
電 話 一 二 九 番



月光に夢を追ひ  
涼風に戀を語る  
若人の胸をよるに高鳴る  
美給揃つてウルトラサービス!  
シャンデリヤ淡き  
露金の美酒  
涼味満喫の境地!

カ ヲ ム 一 番 界

質 物 一 般  
各 種 債 券 類

## 三 井 質 店

平 町 四 丁 目 川 岸  
電 話 六 〇 六 番

# 平町上空を飛行中

## 一、二臺不時着陸

### 四倉と小名濱の海岸に

## 天候に災されて

昨六日午後五時頃平町の上空を飛揚中であつた飛行機二臺のうち一機は四倉海岸にまた一機は同六時頃小名濱海岸に不時着陸したが前記兩機は共に千葉縣船橋町第一飛行學校機で四倉に着したのは同校の木下豊吉(三)氏のJ B A D 號機でありまた小名濱に着陸せるは同校T B B A M 號機の田中近美氏操縦と判明幸ひ人命や機体に支障なかつたので本日兩機は天候回復を待つて居る、不時着陸の原因は天候不良に祟られた結果である

## 知事と内務部長 本日來郡さる

### 濱三郡町村長會に臨席

## 救濟土木打合せ

既報赤木本縣知事及び赤土内務部長の一行は明八日午前九時より平第三小學校に於いて開催される救濟土木事業の意嚮を濱三郡町村長支會長會に於て救濟土木事業打合せの爲め本日午後六時二十二分平驛着列車にて來平し直に湯本町に向ひ松柏館に宿泊する筈

### 磐女で職員と生徒對抗競技

磐城高等女學校にては明日午後二時より同校グラウンド

川 志村 田中 淡路  
酒井 佐藤 穴井 永島  
金澤 安延(籠球)永島

## 本縣健康保險課

### 主催の陸上競技

### 本年平町に開く

磐城中學校グラウンドに於て來月中旬從來福島市に於て行つた縣健康保險課主催同組合員の陸上競技大會が開催される事になつたが競技種目は百米、二百米、四百米、八百リレー、千五百米、一萬米、砲丸投、走巾跳、走高跳等である

## 平公會堂 建築豫算

### 本日町會更正

平町では本日午後一時より

## 梨果荷造品評會

### 十五六兩日平署會議室に

石城郡農會では梨果荷造の改善並に共同出荷獎勵の爲め來る十五、六の兩日平署會議室に於いて梨果荷造即賣品評會を開催する事となつたが希望者は十五日午前九時迄會場に搬入され度いと尚十六日午前中は審査會を開き午後賞品の授與式を舉行する豫定である

## 貴重品類を

### 五個の箱へ

磐城中學校にては從來柔剣道及び体操の時間に遺失物の多い所から之を妨ぐ爲め同時に全校生より貴重品を預る爲め貴重品入箱五ヶを備へ付けた

## 江名町が 提灯行列

### 大喜びで 漁港完成速進の決議

石城郡江名町字中ノ作漁港修築は今回の縣會で工費十五萬圓、二ヶ年繼續事業として着工決定したので地元民中ノ作折戸兩部落の歡喜絶頂に達し去る四日夜は提灯行列を行つた外區民大會を開催し左記の如き決議書を決定同工事の完成速進を圖る等非常な意氣込みで居ると

## 弘前師團 遺骨通過

弘前第一師團の滿洲事變出征兵の遺骨は明八日午後一時五十分平着列車にて通過するの平町各小學校生青年團軍人分會員等が驛頭に見送る

## 平町人事

△鎌田町四九 高島鶴吉氏  
△三男西次郎  
△彌宜町六八 赤塚鶴松氏  
△四男立男(一ツ)  
△新川町九 當時石城郡内郷村字平太郎今野茂藏氏  
長男孝一郎

## 各炭礦對抗庭球

### 古河炭礦の主催

石城郡好間村古河炭礦運動部では本月下旬または來月上旬頃同礦グラウンドに於いて常磐地方各炭礦對抗の庭球大會を催すべく計畫中である

## 平第二校 運動會は

### 來月七日に

既報平第二小學校の秋季運動會は來月七日開催する事に決定したが競技種目は左の如くである  
(一)級個人二回、團體

## 商友會會長 就任承諾

### 九日に總會を

平商友會にては現會計菅本利雄君を會長に推薦既記の如く交渉中の處承諾を得た

## 匪賊 掃蕩夜話

### 滿洲奉天駐劄 軍曹 矢野重光

水の嚴禁  
武器と水は我等軍人の最も大切な物である自分の身の安全の匪賊討伐に於いて

## 市原醫院

平町 田町 電話一四四番

に水の補充が出来なかつた耐へに耐へて次の休憩迄前進する此の間の時間の長い事又水を補充した時の氣持何とも云ひ様がない。  
六月二十四日中隊が左側衛として本隊を警備したが我が吉田分隊は小隊より離れて獨立して遊撃隊と連絡を取るドン／＼前進して山の中に入る。分隊は飛躍早速に水を清水に當てる此の一瞬間永久に忘れる事は出來ない出動後小隊長殿の訓示小隊は小隊長の命を守り良く水を飲まずにやつて来てくれた自分は此の時腹の中がクスリ／＼と云ふ聲を聞いたクスリ／＼薬々此の水の水を確かに毒水に非ず薬水だ。

# 二等客車の便所から

## 不審なうめき声

### 麻縄で病青年縊首を圖る

### 検車係が発見大騒

昨夜十一時五十六分上野發平驛止り列車の空車を檢車係鈴木某が

### 檢車中 三等客車の密

閉せる便所内より嘔き聲が洩れるので不審を抱き驛員と協力合鍵を以つてドア

を排して見ると一名の青年が麻縄を釣つて縊死を圖り苦悶して居るのを發見直ちに山浦鐵道醫が駆付け危ふ

### 一命を取止めたが本

日平署で取調べた結果に依ると同人は千葉縣香取郡栗源村字岩部一四四五、龜吉次男園部秋藏(九)で最近父が事業に失敗して發狂した上同人は心臓病にて働けず五日朝

### 自殺の 目的で家出を

なし常磐線我孫子驛迄の切符を求めて死場所尋ねたが見當らず平驛迄無賃乗車をなして來り此の始末に及んだのであると

# 危険信號 何んのその

## 汽車と根競べ

### 列車を停めた青年が

### 鐵道違反で告發さる

平町紺屋町七政助次男村上隆(九)假名は本月一日午前七時十五分頃磐越東線赤井小川郷間線路内を通行中赤井驛を發した下り卅一號貨

爲列車が着進し來り盛んに危険信號を爲すに拘らず平然として線路を避けず列車は同人の二間前にて急停車を爲し辛ふじて轢殺を免れた是れが爲め同列車は二分

遅延し日本平署に鐵道違反として村上を告發した

### 青訓 聯合演習

### 十一月初旬に

既報石城郡聯合青年訓練所評議員會は本日午後一時より平第一小學校に於て開かれ本年十一月初旬平町を中心として聯合大演習を行ふ

事に決定主事會に計る事になつたが當日は若松二十九聯隊より機關銃二台参加する筈

### 乃木祭に

### 遺物展覽

### 催しの準備

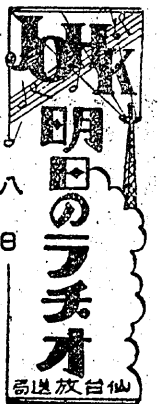
### 着々と進行

平第二小學校にては來る十三日講堂の正面に乃木大將及び令夫人の額を安置し乃木祭を催す事は既記の如くであるが當日は乃木大將遺物展覽會生徒の朗讀對話川崎本社長の乃木將軍及び令夫人に關するお話等ある外各家庭に對し乃木大將遺訓の印刷物を配付すると

### 尊屬殺人

### 實地檢證

既報須馬場東四十三番地居住食肉商西牧武(三)が本年六月二十二日午後十二時頃小名濱町上明神町曙城劇場附近の路上で實父松藏(五)を五連發の短銃で打ち殺さんとした尊屬殺人未遂事件に付來る九日平支部藤原豫審判事及び市川檢事は淺野書記と



### 明日のラジオ

今夜は北東の風 曇り明日は北の風 晴れたり曇ったり

### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話し「バイキン」醫學博士岡田道一  
後六、三〇 山と海の講座  
「英彦山」末岡作太郎  
後七、三〇 神樂祭典樂  
山谷義雄外  
後八、三〇 錦風流尺八

### 明日の部

「鶴巢籠」弘前山谷孤山  
後八、五〇 ゴアイオリン  
アレキサンダーモギレン  
スキー、ピアノ伴奏ナデ  
ジャロイヒテンベルグ  
後九、三〇 時報 全國ニ  
ユース氣象通報 番組豫告

### 無免許桂庵が

### 罰金不服申立

既報石城郡上遠野村大字上遠野字西大澤一番地土工田中己之助(五)は本年三月中旬無免許にて同村植田信子外四名を桐生市方面に周旋をなし營利職業紹介事業取締規則違反として去る一日平區裁判所に於て罰金二十圓の略式命令に處せられたが

### 父兄が見舞金募集

### 四家元訓導への同情

昨報平第二小學校元訓導四家安男氏の受持學級であつた二年三組生徒の父兄有志は昨日午後二時より同校作法室に於て同訓導への見舞金募集の協議をなしたが左の諸氏發起となり生徒の父兄一人より二十錢以上を募集する事に決定したと

### 四倉漁港

### 起工式

### 來官接待

### 費用二千圓

石城郡四倉町の漁港起工式は本月二十日午前九時より同町新町海岸にて行はれる

前六、三〇 家庭教育  
「個性を活かす教育」大坂教育研究所長 大伴茂  
後七、〇〇 エスベラント講座(二十一) 日本エスベラント學會國際常設代表 進藤藤太郎  
前九、一〇 オリムピック派遣日本選手横濱歸着状況(水上選手)  
後〇、〇五 琵琶「本能寺」林龍山月  
後二、〇〇 婦人講座「香道に就て」(終) 蜂谷貞靖  
後五、〇〇 東京市主催日本オリムピックチーム歡

ので去る五日町會を開き來賓四百五十名の接待費として二千圓を計上し委員を舉げて準備中であると

### 磐中山形遠征

中學校体育部にては來る二十三日山形高等學校校友會陸上競技部主催第八回全東北中等學校選手權大會に出場すべく目下猛練習中である

### 蕪市況(日)

### 四倉市場

(白蕪)百三十八貫(最高)四十九圓四十錢(最低)四十二圓八十錢(別)四十五圓七十錢  
(黃蕪)二百貫(最高)四十四圓五十錢(最低)四十二圓八十錢(別)四十三圓八十錢  
平職業紹介所報告  
回求人部  
△豆腐賣子 三十以下 尋卒 賣上の二割給(平町某)

### 一冊の代金

### 御希望通りな

### 五冊の雑誌

### 自由に讀める

### 川崎回文庫

電六三〇番 (申込次規則書進呈)

# 幕末剣士

【禁載上演及映畫】  
悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫  
第四百十五席 女流劍客里見靜枝

里見主計は長谷部傳藏の今以て素行の良しからざる事を聞き、先日參つて涙を流して申したは自分を欺く策略であつたか、此上は強たかに打据えて立花家に仕へる事の成らざるやういたし呉れようと斯う決心した長谷部傳藏は里見をコロリと騙して試合當日は勝を譲りくれるものと思つてゐる、三月の十五日下谷御徒町立花侯上邸にて試合をいたす事に確定した傳藏は貝坂の浪宅に居る飯下平八、秋田丈助に對ひ傳「明日はいよ／＼俺の腕前を殿様の御前で見せる事になつたぞ里見は勝を譲る事になつてゐるから萬に一ツ負けるやうな事は無い、俺が勝利を得ればます／＼信用されて五十石呉れるものならば百石は呉れるであらう俺が立花に仕へる上は貴公方も推舉いたす」

平「宜しく頼む、永い事の浪人で折々米の飯に別れるやうな事もあり、どうも茲兩三年腹ばかり空してゐる刀の柄巻はいたすが、これとて年期を入れて覺えた業ではなし、三人がが」



百文よりは取れぬ」  
丈「それではすきな酒を飲む事も出来ない、どうぞ貴公が立花へ奉公したならば我々を呼んで呉れ頼むぞ」  
傳「それは明日の試合に勝利を得て奉公いたして後貴公方の身の立つ様にも致す

「まア何にしても芽出度の祝の爲に酒を買つて參れ」  
平「ウソ酒は買つて置いた小柄を昨日屑屋に賣つて一升買つて置いた、それに秋田が縁頭を賣つて魚を買つて置いた」  
傳「それは誠心、持のべき

者は朋友だ」  
と是から前祝に一杯飲み快い心持になつてその夜寝み翌朝貝坂の浪宅を後に長谷部傳藏は立花侯の家臣宮本佐中方へ出て来て、茲で衣服を改めさせた、傳藏は浪人での上素行が悪いから衣服の用意はない、宮本佐仲の衣類を借りて  
傳「どうやらこれで武士らしき扮装になりました」  
佐「立派になつたナ、時に今日の試合はどうだナ、勝利を得られるかナ」  
傳「左様、勝敗は時の運と申す事もございませうから果して勝つとは申されませぬ

が、勝負に就ては自信もござる、近頃大言を申すやうにてお聞き苦しき事とは存じますが十中の八九先づ拙者の勝利でござらうか」  
佐「それを聞いて自分も安堵した、其許を周旋いたしたはこ」中、今日試

合に里見の爲に無残なる敗れを取つては自分も面目無い、勝たぬまでも見苦しからざるやうに致して貰ひ度い」  
傳「御心配御無用、勝利は拙者にござる」  
と云つたは勝を譲られる約束が成して居る事として大丈夫金の脇差と思つてゐる、里見の意圖が變つたとは知らず偉さうな事ばかり云つてゐる、やがて佐仲に伴られて馬場へ出て見ると立花家の定紋附いた幕を張り廻し檢分の者三人程控へてゐる、其他はこの試合見物として參つた者、里見主計も麻上下着用、そこへ近侍を伴つて立花侯が参り正面の床几に腰を下した、其處で二人は道具を付けることになつたが長谷部傳藏は道具を付けて竹刀を持つての試合はよし勝てばとて見た態が華奢で無い、木劍を取つての試合は勝つた時に景色がよい、無論里見が負ける事に定つてゐるからこの立合は道具を付けぬがよいと思ひ  
傳「宮本殿にお願いたします、道具を付けての試合は氣乗りが致しません依つて木劍にて勝負を決したく存じます」  
佐「木劍を持つ以上は道具も付けまい」  
傳「左様にございます」  
佐「里見殿、長谷部は木劍勝負を望むが貴殿の意向は」  
問はれて主計はニコリ笑ひ

御用命 印刷物の總代理  
常磐毎日印刷株式會社  
電話三六〇番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 腸胃病 腸虫病  
松村 院 門 專 科 醫 院  
電話一七〇番

難波醫院  
平町新川町  
電話五〇二

磐城名産 魚問屋  
最優最 大最 日本 命生 代理店  
盛賀 榮  
電話一二三番

御注文ハ  
電話二七番  
阿部石炭商店  
平町前

中村齒科醫院  
平町鍛冶町七  
貸切の御用命は！  
獅子吼(四四九)ノ勢デ  
眞先ニ……(マツサキ)  
三九二タクシーへ!!!